

令和7年度 学校関係者評価報告書

大阪府立市岡小学校 学校協議会

1 総括についての評価

本年度の学校自己評価結果に関しては妥当である。

「運営に関する計画」について、各項目でB評価（目標通りに達した）だったので、引き続き円滑な運営を進めてほしい。特に「未来を切り拓く学力・体力の向上」における全市共通目標である「大阪市小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり広げたりすることができますか」に対して最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を35%以上にする」については、数値としては増えてきており向上が見られるので、各教科と連携しながら取り組み中学校でも引き続き進めていく。

また体力・運動能力調査については、良い結果もあったが、苦手意識や体育嫌いな児童も一定数いるので、運動好き・体育好きな児童が増えるよう、次年度以降の取り組みを期待する。

講堂新築も済み運動場や講堂の使用が制限されることなく自由に使用しており、児童を対象とした地域行事も再開しているので、今後もできるだけ多くの児童がより多くの体験ができるように学校と連携しながら実施していく。

2 年度目標（全市共通・学校園）ごとの評価

【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】

全市共通目標（小・中学校）

- ・ 小学校学力経年調査における「いじめは、どんなことがあってもいけないことだと思いますか」に対して最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を90%以上にします。
- ・ 小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にします。
- ・ 小学校学力経年調査における「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を92%以上にします。

学校の年度目標

- ・ 校内児童アンケートの「じぶんにはよいところがあるとおもいますか」という質問に対し、肯定的な回答（「そう思う」「どちらかといえばそう思う」）をする児童の割合を77%以上にします。
- ・ 校内児童アンケートの「スマホの危険性や適切な使い方について理解していますか」という質問に対し、肯定的な回答（「そう思う」「どちらかといえばそう思う」）をする児童の割合を80%以上にします。

達成状況の評価に関しては妥当である。

校内児童アンケートにおける「いじめ」に関する項目（いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか）について、最も肯定的な回答する児童の割合が目標値に達していない学年があったので、引き続き指導を進めてほしい。

本年度も昨年度に引き続きは、元プロで活躍した選手を招いたキャリア教育や大ホールでの鑑賞など、児童が学校外の講師による学習を経験したことで、心の成長を図れたと思うので、次年度も様々な体験的活動を取り入れてほしい。

全市共通目標（小・中学校）

- ・ 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な回答（「そう思う」）をする児童の割合を**35%以上**にします。
- ・ 小学校学力経年調査における算数の平均正答率の対比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より**0.02ポイント**向上します。
- ・ 小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的な回答（「そう思う」「どちらかといえばそう思う」）をする児童の割合を**80%以上**にします。
- ・ 小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を**75%以上**にします。
- ・ 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を**70%以上**にします。

達成状況の評価に関しては妥当である。

学力の向上については、教員の指導力向上を図りながら、次年度も取り組みを進めてほしい。体力の向上については、運動場や講堂での体育科学習や休み時間の外遊びをさらに積極的に進め、特に運動に苦手意識をもっている児童の運動への興味関心の向上に努めてほしい。

【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標（小・中学校）

- ・ 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の57%以上にします。
- ・ 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を**92%以上**にします。

達成状況の評価に関しては妥当である。

学習者用端末については、タイピング技術取得に学校全体で取り組んでいることで能力向上しており、活用率も増えていることは高く評価できる。並行して人と話す活動や本を読む活動にも重点を置いて取り組んでほしい。

教職員の働き方について、働きやすさを感じるにより、児童へ向き合う機会も増えるので、今後も改善をしてほしい。

3 今後の学校園の運営についての意見

学校全体として、落ち着いた雰囲気の中、児童が明るく毎日を過ごしていることに安心している。1月に実施した地域のイベントでも、児童が積極的に活動に取り組む様子を見て、日々の学校での的確な指導を感じた。

年々児童数が減少傾向にあるが、次年度以降も引き続き学校・保護者（PTA）・地域が協同していくこと、小中連携が活発化することを目標に学校協議会を運営していき、児童の心身の健全な成長を支援していく。